

令和4年度 全国学力調査結果分析（国語）

分類	区分	対象設 問数	平均正答率（％）			
			本校	明石市	兵庫県	全国
全体		14	78	71	69	69
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	83.8	75.1	73.1	72.2
		(2)情報の扱い方に関する事項	49.2	47.4	44.5	46.5
		(3)我が国の言語文化に関する事項	73.8	70.6	69.2	70.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	72.3	65.5	63.1	63.9
		B 書くこと	49.2	47.4	44.5	46.5
		C 読むこと	80.0	67.5	66.8	67.9
評価の観点	知識・技能	10	77.4	71.0	69.0	69.0
	思考・判断・表現	6	71.0	63.2	61.2	62.3
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	6	78.5	74.9	73.1	73.7
	短答式	5	84.9	73.6	71.7	70.3
	記述式	3	64.6	57.3	55.4	57.4

問題 番号	評価の観点		問題形式			正答率		
	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述	本校	県	全国
1一		○		○		90.8	75.1	74.7
1二		○	○			64.6	63.8	65.1
1三	○	○			○	61.5	50.3	51.8
2一	○		○			87.7	82.3	82.3
2二①	○			○		96.9	83.9	82.1
2二②	○			○		78.5	82.2	80.5
2三	○	○			○	49.2	44.5	46.5
3一	○			○		81.5	55.0	52.5
3二	○		○			96.9	84.6	84.0
3三		○		○		76.9	62.3	62.2

問題 番号	評価の観点		問題形式			正答率		
	知識・技能	思考・判断・表現	選択	短答	記述	本校	県	全国
3四					○	83.1	71.3	73.8
4一	○		○			32.3	37.4	39.4
4二	○		○			93.8	90.1	90.1
4三	○		○			95.4	80.0	81.1

全国・県との比較でみると、平均正答率は9ポイント上回っており、総合的な国語力が定着していると考えられる。ただし、個々の設問内容によっては全国・県を下回っている問題もいくつかあり、今後の課題である。

問題1の二は、話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する問題であるが、全国平均を0.5ポイント下回っている。論理の展開などに注意し、話全体がどのようにまとめられているかを考えることに課題があると考えられる。

問題2の二②は、傍線部のひらがなを漢字に直す問題であるが、県平均を3.7ポイント、全国平均を2ポイント下回っている。送り仮名を除く漢字のみの部分を書く設問だったため、送り仮名を付け足した解答が多かったと考えられるが、平素の漢字の読み書きの指導を今後も丁寧かつ徹底していきたい。なお、同様の漢字の問題である問題2の二①は、全国平均を14.8ポイント上回っている。問題4の一は、行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する問題であるが、県平均を5.1ポイント、全国平均を7.1ポイント下回っている。行書の特徴については各学期書写の時間を通じて指導しているが、国語の他の領域に比べて配当時間が少なく、指導内容の定着に向けて工夫と改善を図る必要がある。

一方、全国・県平均に比べて大きく上回ったのが、問題1の一と問題3の三である。問題1の一は、スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す問題であるが、県平均を15.7ポイント、全国平均を16.1ポイント上回っている。平素の学習活動のなかで、様々なタイプの文章を書くことを継続しており、その成果が表れているものと考えられる。

また、問題3の三は、話の展開に沿って文章中の人物の行動や心情を並べ替える問題であるが、県平均を14.6ポイント、全国平均を14.9ポイント上回っている。場面の展開や登場人物の心情の変化など、文章の構造を的確に把握する読み取りの力の定着が図られていると考えられる。